

日本病院前救急診療医学会誌

Journal of Japan Society for Prehospital Medicine

Vol.17 No.2 2022

第17回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会 プログラム・抄録集

会期

2022年11月26日（土）、27日（日）

会場

日本医科大学 教育棟・橘桜会館

会長

横堀 将司（日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野教授
日本医科大学付属病院 高度救命救急センター長）

「新時代の病院前救護へ挑戦」



日本病院前救急診療医学会

Japan Society for Prehospital Medicine



目次

会長挨拶	3
交通案内	4
会場案内	5
各種会議	6
参加者へのご案内とお願い	7
座長のみなさまへ	9
演者のみなさまへ	10
日程表	12
次期会長挨拶	13
プログラム	17
抄録	
会長講演	27
特別講演	28
シンポジウム	30
パネルディスカッション	46
共催セミナー	52
一般演題	55



日本医科大学付属病院
高度救命救急センター

第17回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会 プログラム・抄録集

学会名：第17回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会

会期：2022年11月26日（土）、11月27日（日）

会長：横堀 将司

（日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野教授・
日本医科大学付属病院 高度救命救急センター長）

会場：日本医科大学 教育棟・橘桜会館^{きつおう}
（東京都文京区向丘2丁目20-7）

テーマ：新時代の病院前救護へ挑戦

学術集会ホームページ：<https://site2.convention.co.jp/17jspm/>

事務局：日本医科大学付属病院 高度救命救急センター内

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

TEL：03-3822-2131 FAX：03-3821-5102

運営準備室：日本コンベンションサービス株式会社

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2

大同生命霞が関ビル14階

E-mail：17jspm@convention.co.jp

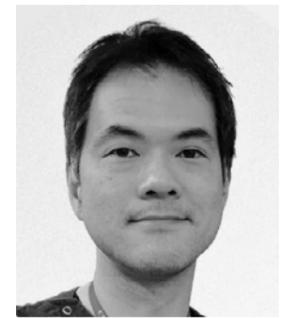
学術集会当日の連絡先：080-6962-0086

※11月26日、27日のみ通話可能です。

※電話番号のかけまちがいにご注意ください。

会長挨拶

テーマ 【新時代の病院前救護へ挑戦】



このたび第17回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会を2022年11月26日（土）と11月27日（日）の2日間に渡りお世話させていただくことになりました。

本会の会長として総会・学術集会を主催させていただくことは、私自身もとより、教室員、関連施設、そして同門にとっても大変名誉なことでもあります。学会員の皆様にご心より感謝を申し上げます。

本会は病院前救急診療の進歩と普及に貢献することを目的として、平成18年に日本病院前救急診療研究会として発足しました。（第1回学術集会：小濱啓次会長）

その後、回を重ね大きく発展し、平成25年第7回学術集会の際に（甲斐達朗会長）日本病院前救急診療医学会として新たなスタートをきり、現在に至っております。

この間、歴代の会長を務められた先生方は、病院前救急診療の充実、実践、役割やシステム構築などをフォーカスし、重症度や緊急度の高い救急患者への病院前救護や治療に関して活発な議論を展開する機会を提供されました。

今、本会の歴史を振り返り、本会の社会への貢献とその責任の重みをあらためて、ひしと感じている次第であります。

さて、救急医療を取り巻く環境は大きく変化しております。わが国における救急車搬送は664万件/年を超え（令和2年版 救急・救助の現況）、人口高齢化に相まって益々増加傾向にあります。また新型コロナウイルス感染症を乗り越えるべく、在宅診療や病院前救護システムの整備への期待も益々高くなっております。循環器・脳卒中基本法の制定、救急救命士法改正、そして医師の働き方改革への対応も相まって、病院前救急診療を取り巻く環境は多様化・複雑化しております。

私は、これらを前向きに「新時代」の到来ととらえ、それらに強く立ち向かっていく本会の意義をイメージしました。ゆえ、本会のテーマを【新時代の病院前救護へ挑戦】といたしました。

医療者は常に病める人の幸せのために、迅速かつ最善の治療を施すのが使命であります。患者さんのために全力で挑む心を持ち続けよう。参加された皆様がそのような気持ちになれるような学術集会にして参りたいと思います。

なお、私事ではございますが、私にとりまして学術集会会長を仰せつかりましたのは初めての経験で、私にとりましてまさに「挑戦」であります。

わが国の病院前診療を大きく発展させて来られた本会の諸先輩方のお名前に恥じぬよう、本会の発展のため、挑戦のスピリットのもとに鋭意努力して参ります。改めて皆様の御指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

本会が会員皆様の最良の学びと交流の場となりますよう、どうか活発なご討議をお願い申し上げます。

第17回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会会長

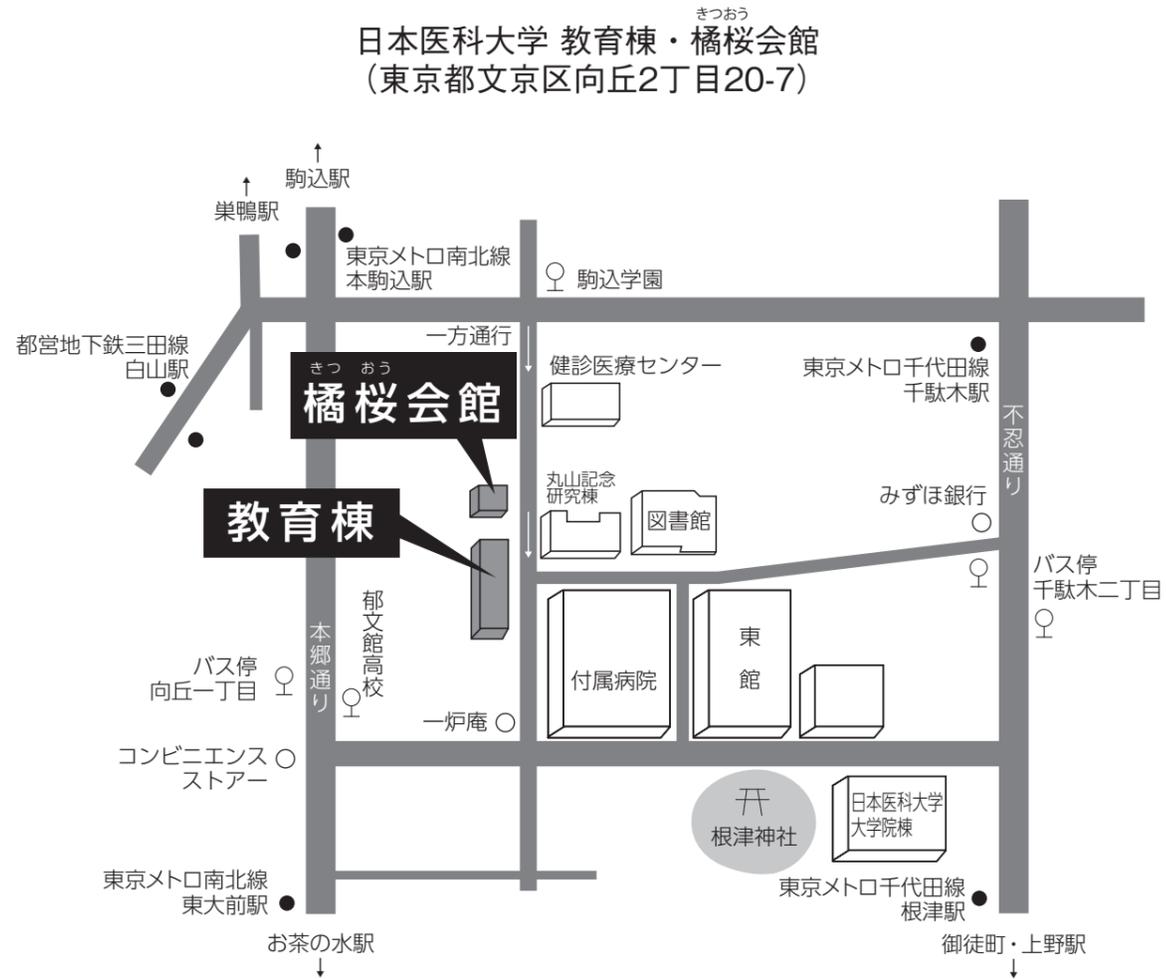
日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野教授

日本医科大学付属病院 高度救命救急センター長

横堀 将司

交通案内

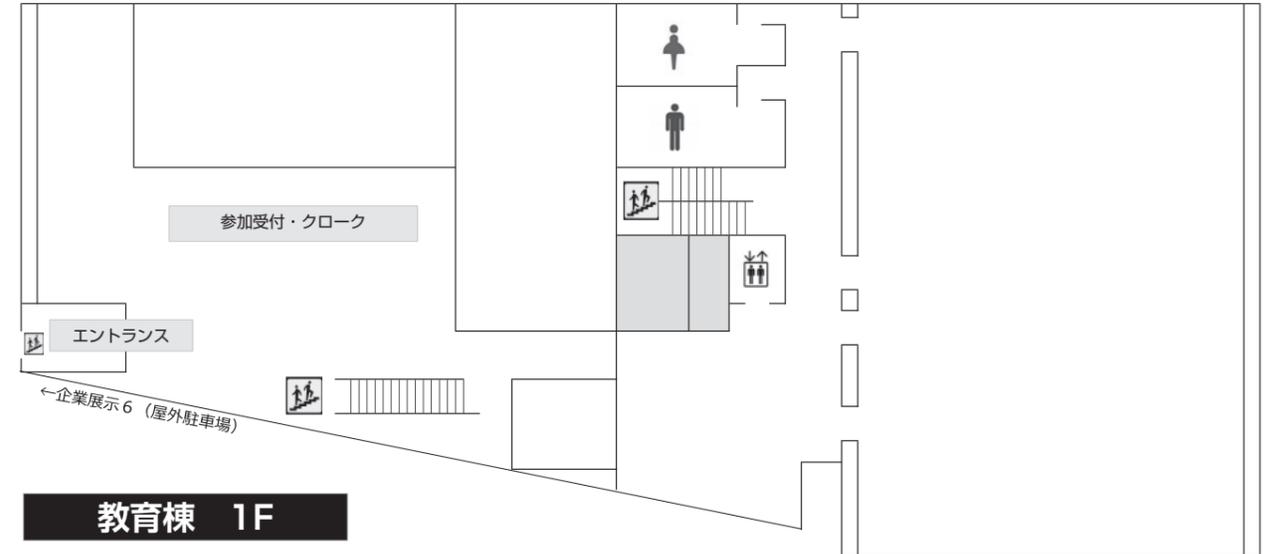
日本医科大学 教育棟・橘桜会館
(東京都文京区向丘2丁目20-7)



《利用交通機関》

- ◇ 東京メトロ千代田線 千駄木駅または根津駅下車 徒歩8分
- ◇ 東京メトロ南北線 東大前駅または本駒込下車 徒歩8分
- ◇ 都営地下鉄三田線 白山駅下車 徒歩10分

会場案内



教育棟 1F



教育棟 2F

- 企業展示
1. マシモジャパン株式会社
 2. パーズ・ビュー株式会社
 3. 株式会社シンクロアイズ
 4. 旭化成ゾールメディカル株式会社
 5. 塩野義製薬株式会社
 6. 日本ストライカー株式会社 (※屋外駐車場)

各種会議

2022年11月26日（土）

理事会：13時～15時（会場：橘桜会館 1F 第一会議室）

評議員会：15時～16時（会場：教育棟 3F 講義室3）

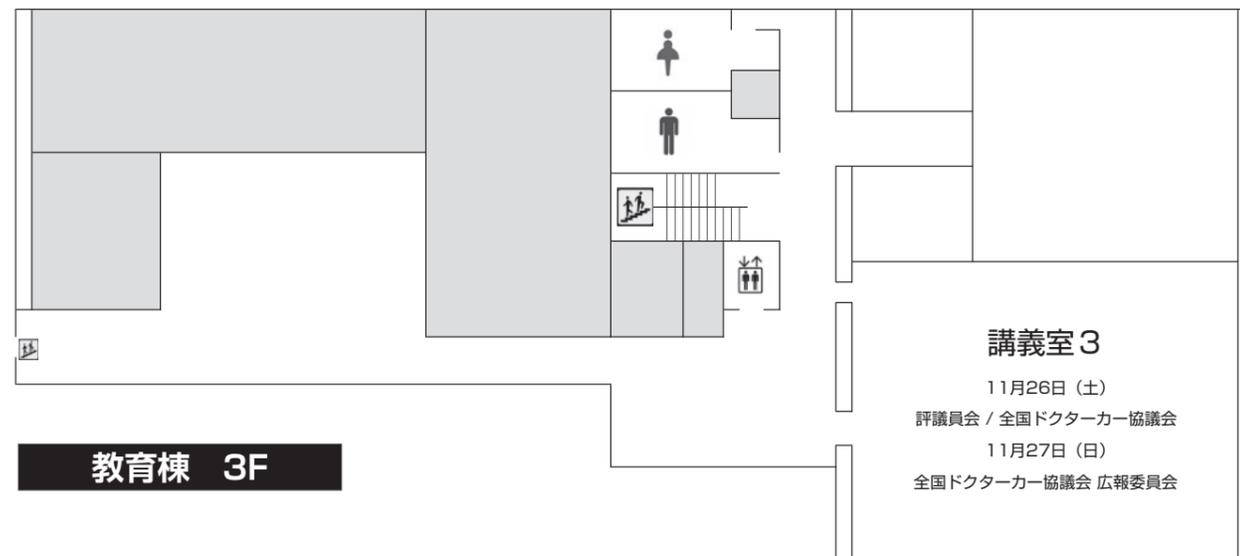
全国ドクターカー協議会（旧日本ドクターカー協議会）：

16時～17時（web会議併催）（会場：教育棟 3F 講義室3）

2022年11月27日（日）

全国ドクターカー協議会 広報委員会：

12時半～13時半（web会議併催）（会場：教育棟 3F 講義室3）



参加者へのご案内とお願い

1. 参加者のみなさまへ

1) 参加方法

本学術集会当日に会場内の参加受付にて、参加費をお支払いください。

（受付時間 8：00～17：00）

2) 参加費

区分	参加費
会員	10,000 円
非会員	10,000 円
初期臨床研修医	5,000 円
メディカルスタッフ	5,000 円
学生	無料

※いかなる場合においても参加証・領収書の再発行は致しません。

3) 参加証明書

参加費支払い後、参加証明書、領収書、ネームカード、ネームストラップをお渡しします。会場内ではネームカードを常に着用してください。

4) プログラム・抄録集

会員の方には、事前に送付いたします。また、ホームページでも閲覧できるよう準備します。

5) 本学術集会は、ライブ配信、オンデマンド配信はございません。

2. 本学術集会参加の注意点

現地開催を原則といたしますので、参加される方は、以下の内容をご確認の上、ご来場ください。

- ・以下の事項に該当する場合は、来場をお控えください。
 - ①体調が優れない場合（例：37.5℃以上の発熱・咳・咽頭痛・感冒症状）
 - ②同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。
 - ③過去3日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
- ※来場時に確認させていただき、上記に当てはまる際は、スタッフの指示に従ってください。
- ・マスクを必ず着用の上、ご来場ください。
- ・大声での会話等はお控えください。
- ・こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を行ってください。
- ・ランチョンセミナーでお食事中的の会話はお控えください。
- ・お食事はなるべく早くお済ませの上、お食事後は速やかにマスクの着用をお願いします。

3. 会場内でのご注意

- ・写真撮影、録音、録画は許可を得たもの以外は禁止です。会場内では携帯電話はマナーモードに設定し、通話をご遠慮ください。
- ・活発に討論いただけますよう、ご質問等は積極的にご参加ください。質問される際には、前もってマイクの前にお進みいただき、座長の指示に従って順番にご発言ください。

4. 企業展示

旭化成ゾールメディカル株式会社
塩野義製薬株式会社
株式会社シンクロアイズ
バース・ビュー株式会社
日本ストライカー株式会社
マシモジャパン株式会社

5. 託児所・書籍展示

今回の学術集会ではご準備いたしませんので、ご了承ください。

6. プログラム・抄録集販売

会場内の受付にて2,000円（税込）で販売いたします。

7. クローク

教育棟に設置いたします。

受付時間：11月27日（日） 8：00～18：00

8. マスメディア・取材希望の方

学術集会ホームページに申込要項を記載しておりますので、そちらからお申し込みください。

座長のみなさまへ

- ・座長は、セッション開始 10 分前までに会場内右手前方の次座長席へお越しいただき、進行席スタッフに到着の旨をお知らせください。
- ・1 題あたりの発表時間は下記の通りです。演者が発表時間を超過した場合、速やかに発表を終了するように促してください。
- ・シンポジウム 1～3、ならびにパネルディスカッション 1、2
発表 10分、個別質疑 なし、総合討論は、各セッションによって異なりますが、20分～50分程度を予定しております。
- ・一般演題、ならびにシンポジウム関連セッション
発表 7分、個別質疑 3分 計 10分

演者のみなさまへ

- ・シンポジウム1～3、ならびにパネルディスカッション1、2
発表 10分、個別質疑 なし、総合討論は、各セッションによって異なりますが、20分～50分程度を予定しております。

- ・一般演題、ならびにシンポジウム関連セッション
発表 7分、個別質疑 3分 計10分

発表スライドはご発表当日に会場内のPCセンターにてご提出ください。

1枚目にタイトルスライド、2枚目に筆頭演者の利益相反に関する情報開示をお願いいたします。

PCセンター開設時間

11月27日（日）8：20～16：30

質疑応答、討論につきましては座長の指示に従ってください。

メディアをお持ち込みになる場合

- A) 使用可能なメディアは、USBメモリのみです。
- B) 持ち込まれるメディアには、当日発表されるデータ（完成版）以外のデータを入れないようにしてください。
- C) 事務局で用意するPCは、OS：Windows10以降、アプリケーションソフト：Microsoft PowerPoint2013/2021です。
- D) 動画データをご使用の場合は、Windows10およびWindows Media Player11以降の初期状態に含まれるコーデックで再生できる動画ファイルを作成の上、スライド自身に埋め込むか、リンクする場合はスライドデータと同一フォルダーに入れてお持ちください。
(動画ファイルはWMV又はMP4形式を推奨いたします。)
※必ず作成に使用されたPC以外の機種での動作確認をお願いいたします。
※バックアップデータもお持ちいただけることを推奨いたします。
- E) 使用フォントは文字化け、レイアウトのくずれを防ぐためWindows標準搭載のものご使用ください。
メイリオ、MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝、Arial、Arial Black、Century、Century Gothic、Times New Roman など

- F) 発表に使用するPCは全てFull HD（1920×1080）に統一してありますので、スライドのサイズをワイド画面（16：9）で作成する事をお勧めします。（4：3スライドでも問題なく表示されます。）
- G) メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルス駆除ソフトでチェックしてください。
- H) 演台上のモニターはスクリーンと同じスライドが表示されており、発表者ツールは使用できません。

パソコンをお持ち込みになる場合

- A) パソコンのACアダプターは必ずご自身でご用意ください。
※会場でご用意するケーブルコネクタの形状は、HDMI又はMiniD-Sub15ピンです。
外付けコネクタを必要とする場合には必ずご自身でお持ちください。
- B) スクリーンセーバーならびに省電力設定等は事前に解除してください。
- C) バックアップ用のデータ（USBメモリ）もご持参ください。
- D) スムーズな進行のために、演台への乗せ上げや発表者ツールのご使用はご遠慮ください。
- E) 端末は、ご発表の20分前には会場内のオペレーター席にお持ち込み願います。
- F) 端末は、セッション終了後、会場内のオペレーター席にてご返却いたします。

[発表データに関するお問い合わせ先]

日本コンベンションサービス株式会社

E-mail：17jspm@convention.co.jp

2022年11月27日（日）スケジュール

	第1会場 教育棟 2F 講堂	第2会場 教育棟 2F 講義室1	第3会場 教育棟 2F 講義室2
8:00	8:25~8:30 開会式		
9:00	8:30~10:20 シンポジウム1 ECPRとECMO治療：病院前導入と搬送のTips 座長：今 明秀、大友 康裕 演者：小倉 崇以、十倉 知久、増野 智彦、藤田 健亮、三宅 のどか、星野 耕大、堀越 佑一	8:30~9:30 一般演題 口演2 症例報告 座長：清田 和也 演者：石室 正輝、吉田 奈央、青木 敬亮、八坂 剛一、高野 啓佑、太田黒 崇伸	8:30~10:00 シンポジウム3（看護セッション） グラウンドナースの育成と今後の展望 座長：竹原 典子、山崎 早苗 演者：山崎 早苗、三上 剛人、野呂 美香、高橋 竜介、山村 英治、長井 貴司、水本 光秀
10:00		9:35~10:45 シンポジウム2 関連セッション 座長：奥寺 敬 演者：浅川 拓克、沼田 浩人、北原 嶺、鈴木 優子、華房 宏成、金畑 圭太、武田 吉正	
11:00	10:40~11:30 特別講演1 南海トラフ地震における医療活動の課題 座長：細川 秀一 演者：小井土 雄一	10:50~11:30 一般演題 口演3 病院前評価 座長：岩瀬 史明 演者：吉田 裕介、岩田 千優、梅田 浩介、上村 浩貴	10:30~11:50 パネルディスカッション1 夢を語れ！未来の病院前診療への挑戦 座長：今 明秀 演者：本村 友一、森村 尚登、中村 光伸、大友 康裕、酒井 智彦、吉村 有矢 特別発言：塩田 博昭
12:00	11:50~12:20 会長講演 座長：中川 儀英 演者：横堀 将司		
13:00	12:30~13:20 共催セミナー1 座長：坂本 哲也 演者：増野 智彦 共催：アストラゼネカ株式会社	12:30~13:20 共催セミナー2 座長：恩田 秀賢 演者：土井 智喜、園生 智弘 共催：フクダ電子東京中央販売株式会社	12:30~13:20 共催セミナー3 座長：竹原 典子 演者：本多 ゆみえ、山崎 早苗、須賀 涼太郎、細木 豪 共催：株式会社ジョリーグッド
	13:25~13:40 総会		
14:00	13:40~14:30 特別講演2 事態対処医療：これまでの歩みと今後の展望 ～警視庁IMATの活動を通して 座長：橋本 雄太郎 演者：萩原 純		
15:00	14:35~16:35 シンポジウム2 病院前診療の普及時代における活動の質向上を目指して 座長：坂本 哲也、林 靖之 演者：遠藤 彰、中野 公介、山田 哲久、益子 一樹、米盛 輝武、問田 千晶、田口 茂正	14:30~15:30 一般演題 口演4 COVID-19 座長：河野 元嗣 演者：守田 崇俊、小倉 勝弘、宮上 和也、高安 恭子、山川 祐亮、片山 祐介	14:30~15:40 一般演題 口演7 運用 座長：増野 智彦 演者：藤原 悠太、岸田 全人、卜部 真清、吉岡 勇気、小林 辰輔、田中 庸介、木本 慧
16:00		15:30~16:40 一般演題 口演5 ドクターカー 取り組み 座長：小林 誠人 演者：仲里 玲哉、火山 賢二、濱口 拓郎、増澤 佑哉、玉井 文洋、光銭 大裕、伊藤 裕介	15:45~17:15 パネルディスカッション2 病院前診療：救急医療と地域医療との連携を考える （日本在宅救急医学会・日本病院前救急診療医学会合同企画） 座長：横田 裕行、照沼 秀也 演者：横田 裕行、小豆畑 丈夫、照沼 秀也、加藤 宏、佐々木 淳、原 秀憲
17:00	16:40~17:40 一般演題 口演1 課題 座長：猪口 貞樹 演者：藤本 稜、北野 信之介、清水 裕介、山上 雄司、堺 正仁、近藤 英史	16:40~17:40 一般演題 口演6 多職種連携 座長：中村 光伸 演者：中井 美幸、宮城 春彦、猪鼻 寿樹、佐々木 俊一、伊藤 希美、勝又 広太	
18:00	17:40~17:50 閉会式		

次期会長挨拶

ご挨拶

この度、第18回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会を2023年12月8日・9日の両日に、神奈川県小田原市にて開催させていただき運びとなりました。

本会は、病院前救急診療として医師が現場出動する体制の進歩と普及を目的に2006年に病院前救急診療研究会として発足し、2013年に日本病院前救急診療医学会として改変され、現在に至っております。

医師が救急現場に出動する体制として、ドクターヘリ・ドクターカーの運用が定着し、ドクターヘリにおいては2022年度に全国への配備が完了され、ドクターカーにおいては多くの医療施設で運用されております。ドクターカーは、救急医療機関から医師や看護師が救急現場に出場し治療を開始しながら患者を医療機関へ搬送するだけではなく、救急現場への医師の早期到着を目的としたラピッドレスポンスカーや在宅診療の緊急往診車としても活躍しています。さらに近年では、新たな試みとしてドクターカーレジストリの構築が開始されたところです。

また、2021年10月に改正された救急救命士法の一部改正による救急救命士の活動場所の拡大、医師の働き方改革によるタスクシフト、さらにはワークステーションとドクターカーの併用など、病院前救急診療は大きな転換期にあります。医師や看護師が今後も社会のニーズに応えながら診療を行うにあたり、病院前救急診療は更なる発展の可能性を秘めている領域であると感じております。

そこで、本会においては、『病院前救急診療の新しい潮流』というテーマで、「ドクターカー」、「院内救命士」、「ワークステーション」を中心に、ご議論いただきたいと考えております。

開催地である小田原は、小田原城といった史跡をはじめ、箱根連山につながる山地や曾我丘陵に囲まれ相模湾にも面する自然豊かな土地であると共に、東海道新幹線を含む5社6路線が乗り入れる交通至便の街でもありますので、大会終了後は観光地である箱根にも足をお運びください。

学術集会事務局一同、鋭意準備して参ります。本会が皆様において、病院前救急診療の情報交換ならびに学びの場となればと期待しております。

小田原にて皆様のご参加をお待ちいたしております。

2022年10月27日

第18回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会会長
東海大学医学部救命救急医学 領域主任
教授
中川 儀 英

会 告

第18回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会

会 期：2023年（令和5年）12月9日（土）（12月8日（金）：ビジネスミーティング）
会 場：ミナカ小田原 コンベンションホール
〒250-0011 神奈川県小田原市栄町1-1-15 タワー棟4F
会 長：中川 儀英（東海大学医学部救命救急医学 領域主任教授）
主催事務局：東海大学医学部救命救急医学
〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143 TEL：0463-93-1121（代表）
事務局長：山本 理絵



【第1会場 教育棟 2F 講堂】

開会式 8:25 ~ 8:30

シンポジウム1 ECPRとECMO治療：病院前導入と搬送のTips 8:30 ~ 10:20

座長：今 明秀 (八戸市立市民病院 救命救急センター)
大友 康裕 (東京医科歯科大学 救命救急センター)

S1-1 Utsunomiya Critical Care & ECMO Transport Team: U-CCETT

小倉 崇以 (済生会宇都宮病院 栃木県救命救急センター)

S1-2 病院前体外循環式心肺蘇生法 (ECPR) による劇的救命へ ～ドクターカーV3の現状と将来像～

十倉 知久 (八戸市立市民病院 救命救急センター)

S1-3 迅速・安全なECPR導入に向けての当院の取り組み

増野 智彦 (日本医科大学付属病院 高度救命救急センター / 日本医科大学 救急医学教室)

S1-4 Prehospital ECPR 宇都宮model ～“Resuscitation”として考える理想のPrehospital ECPR～

藤田 健亮 (済生会宇都宮病院 救急・集中治療科)

S1-5 当院におけるVV-ECMO患者のPrimary TransportとSecondary Transportの経験

三宅 のどか (日本医科大学付属病院 高度救命救急センター)

S1-6 ドクターカーとECMOカーを活用した効率的なECMO搬送体制の確立を目指して

星野 耕大 (福岡大学病院 救命救急センター)

S1-7 西東京多摩地域におけるprehospital ECPR実現に向けた当院の取り組みについて

堀越 佑一 (東京都立多摩総合医療センター 救命救急センター ECMO センター)

特別講演 1 10:40 ~ 11:30

座長：細川 秀一 (公益社団法人 日本医師会 常任理事)

特別講演1 南海トラフ地震における医療活動の課題

小井土 雄一 (国立病院機構本部 DMAT 事務局)

会長講演 11:50 ~ 12:20

座長：中川 儀英 (東海大学 救命救急医学)

会長講演 秋葉原無差別殺傷事件の真実：私たちに何ができて、何ができなかったのか

横堀 将司 (日本医科大学大学院医学研究科 救急医学分野 / 日本医科大学 救急医学教室)

共催セミナー 1 12:30 ~ 13:20

座長：坂本 哲也 (帝京大学医学部附属病院)

LS1 危機的出血患者に対する対応とその進歩 – Transfusion: Gift of life or Not –

増野 智彦 (日本医科大学付属病院 高度救命救急センター / 日本医科大学 救急医学教室)

共催：アストラゼネカ株式会社

プログラム



特別講演 2 13:40 ~ 14:30

座長：橋本 雄太郎 (香川大学 危機管理教育・研究・地域連携推進機構)

特別講演 2 **事態対処医療：これまでの歩みと今後の展望 ～警視庁IMATの活動を通して**
萩原 純 (日本医科大学 救急医学教室／日本医科大学付属病院救命救急科)

シンポジウム 2 病院前診療の普及時代における活動の質向上を目指して 14:35 ~ 16:35

座長：坂本 哲也 (帝京大学 医学部救急医学講座)
林 靖之 (大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター)

- S2-1** **重症外傷における医師病院前診療はどのような症例で効果的か**
遠藤 彰 (土浦協同病院 救命救急センター)
- S2-2** **ドクターカーの新規運用開始にあたって～いかに質の高い診療体制・運行体制の構築を図ったか、当院救命救急センターでの取り組みについて**
中野 公介 (さいたま市立病院 救命救急センター)
- S2-3** **当院でのドクターカー医師養成に関してードクターカー医師の質の維持を目指してー**
山田 哲久 (飯塚病院 救急科)
- S2-4** **病院前救急診療の質向上には、学会としてやるべきことがある～DH効果検討委員会の活動を参考に～**
益子 一樹 (日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター／ショック・外傷センター)
- S2-5** **地域で質を担保する病院前救急診療「タテ」の連携「ヨコ」の連携**
米盛 輝武 (社会医療法人仁愛会 浦添総合病院)
- S2-6** **ドクターカーによる高緊急搬送支援システム**
問田 千晶 (モバイルICU/ERによる病院間高度緊急搬送支援システム構築プロジェクト)
- S2-7** **ドクターカーの「24時間運行」と「質の維持」を両立するための方策**
田口 茂正 (さいたま赤十字病院 高度救命救急センター)

一般演題 □演 1 課題 16:40 ~ 17:40

座長：猪口 貞樹 (海老名総合病院 救命救急センター)

- O1-1** **KSAVEモデルに基づいた次世代型病院前診療を目指して**
藤本 稜 (徳島県立中央病院)
- O1-2** **ドクターカー先着症例での救急隊現場滞在時間の検証**
北野 信之介 (日本医科大学多摩永山病院救命救急科)
- O1-3** **小型船舶を活用した医療救護における医師及び救命士教育**
清水 裕介 (杏林大学医学部 救急医学)
- O1-4** **小児にこそドクターカーによる早期医療介入が必要である！**
山上 雄司 (兵庫県立尼崎総合医療センター 小児救急集中治療科)
- O1-5** **2次救急病院の病院前診療の取り組み**
堺 正仁 (巨樹の会新武雄病院)
- O1-6** **当センターの八戸圏域重症救急搬送症例への病院前救急診療の検討**
近藤 英史 (八戸市立市民病院救命救急センター)

閉会式 17:40 ~ 17:50

【第2会場 教育棟 2F 講義室1】

一般演題 □演 2 症例報告 8:30 ~ 9:30

座長：清田 和也 (さいたま赤十字病院)

- O2-1** **熱中症患者にcarboncoolを使用した1例**
石室 正輝 (日本医科大学武蔵小杉病院)
- O2-2** **Dr.Carと病院救急車が同時出場した一例**
吉田 奈央 (埼玉医科大学国際医療センター)
- O2-3** **救急現場での痙攣重責および無脈性心室頻拍に対するドクターカー診療により救命された1例**
青木 敬亮 (東京都済生会中央病院 救命救急センター)
- O2-4** **ドクターカーで心停止を予防しハイブリッドERを駆使し救命し得た鈍的重傷多発外傷の一例**
八坂 剛一 (さいたま赤十字病院 高度救命救急センター)
- O2-5** **院外心停止に対してドクターカーによる連携により、VA-ECMO導入に成功し救命した小児劇症型心筋炎の一例**
高野 啓佑 (奈良県立医科大学附属病院高度救命救急センター)
- O2-6** **救急自動通報システム(D-Call Net)により迅速に対応できた乗用車単独事故症例**
太田黒 崇伸 (長崎大学病院高度救命救急センター)

シンポジウム 2 関連セッション 9:35 ~ 10:45

座長：奥寺 敬 (富山大学附属病院 災害・救命センター)

- SR-1** **他緊急自動車と区別できるドクターカー独自のサイレンの開発研究の速報**
浅川 拓克 (八戸工業大学 工学部 工学科)
- SR-2** **当院のドクターカー活動における安全管理教育体制**
沼田 浩人 (日本医科大学多摩永山病院救命救急科)
- SR-3** **病院前診療におけるスマートグラス導入の効果と課題**
北原 嶺 (東京医科歯科大学病院 救命救急センター)
- SR-4** **現着時から始動するソーシャルワーク「EMPASS」の紹介と今後の展望**
鈴木 優子 (トヨタ記念病院 救急科)
- SR-5** **病院前における心肺蘇生の質向上に向けて**
華房 宏成 (済生会宇都宮病院 救急・集中治療科)
- SR-6** **前橋赤十字病院における病院前救急診療の教育体制の刷新**
金畑 圭太 (前橋赤十字病院 集中治療科・救急科)
- SR-7** **ROSC前に選択的脳冷却を施行する**
武田 吉正 (東邦大学)

一般演題 □演 3 病院前評価 10:50 ~ 11:30

座長：岩瀬 史明 (山梨県立中央病院 高度救命救急センター)

- O3-1** **ドクターカー症例における病院前血中乳酸値の有用性について**
吉田 裕介 (宮崎県立延岡病院 救命救急センター)
- O3-2** **病院前診療における簡便で有用な脳梗塞診断のための指標の検討**
岩田 千優 (山梨県立中央病院 高度救命救急センター)
- O3-3** **機械的血栓回収療法の対象となる脳梗塞患者に対して病院前救急診療は有効か？**
梅田 浩介 (山梨県立中央病院 高度救命救急センター)

O3-4 東京の救急搬送記録を用いた窒息患者の後方視的解析

上村 浩貴 (日本医科大学付属病院高度救命救急センター)

共催セミナー 2

12:30 ~ 13:20

座長：恩田 秀賢 (日本医科大学付属病院 高度救命救急センター)**LS2-1 DXでつながる救急隊活動と医療機関**

土井 智喜 (横須賀共済病院 救急科 部長)

LS2-2 地域救急隊を巻き込むプロジェクト推進のTips ~自治体の視点を含めて~

園生 智弘 (TXP Medical 代表取締役/救急医)

共催：フクダ電子東京中央販売株式会社

一般演題 口演 4 COVID-19

14:30 ~ 15:30

座長：河野 元嗣 (筑波メディカルセンター病院)**O4-1 当院の救急救命士におけるcovid-19患者対応**

守田 崇俊 (八戸市立市民病院)

O4-2 自治体との協定締結に基づくCOVID-19患者搬送

小倉 勝弘 (日本体育大学 保健医療学部 救急医療学科)

O4-3 コロナ禍はドクターカー活動に影響したか？—都市部救命救急センターにおける検討—

宮上 和也 (日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急科)

O4-4 命の「尊厳」を守るドクターカーの活動 ~コロナ禍の沖縄で感じた新たな可能性~

高安 恭子 (社会医療法人友愛会 友愛医療センター 看護部 救急部)

O4-5 当院の新型コロナ重症患者病院前仮設診療所(青空診療)におけるリスク管理

山川 祐亮 (日本医科大学付属病院 高度救命救急センター)

O4-6 新型コロナウイルス感染症の感染拡大がもたらした救急搬送困難事例の発生と転帰

片山 祐介 (大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター)

一般演題 口演 5 ドクターカー 取り組み

15:30 ~ 16:40

座長：小林 誠人 (鳥取県立中央病院 高次救急集中治療センター)**O5-1 リアルタイム映像音声配信システムを用いた、現場の可視化と遠隔支援システムの構築**

仲里 玲哉 (社会医療法人友愛会 友愛医療センター 救急科)

O5-2 未経験の事案に強くなる為に -「発想力」を鍛える事で-

火山 賢二 (済生会滋賀県病院)

O5-3 院外心停止に対する院内ECPRにおける当院ドクターカーの有効性について

濱口 拓郎 (済生会宇都宮病院/日本医科大学 救急医学教室)

O5-4 当院におけるドクターカー活動の現況

増澤 佑哉 (東京都済生会中央病院 救命救急センター)

O5-5 大分市における病院前医療チーム派遣状況と当院の取り組み

玉井 文洋 (社会医療法人三愛会 大分三愛メディカルセンター)

O5-6 多摩総合ドクターカー 現場と課題

光銭 大裕 (東京都立多摩総合医療センター)

O5-7 ドクターカーコースの開催について

伊藤 裕介 (大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター)

一般演題 口演 6 多職種連携

16:40 ~ 17:40

座長：中村 光伸 (前橋赤十字病院 高度救命救急センター)**O6-1 ICTを用いたドクターカー運行がもたらす救急看護師の行動変容**

中井 美幸 (徳島県立中央病院)

O6-2 「ロールモデルナース」によるドクターカーナース育成プロジェクト

宮城 春彦 (社会医療法人友愛会 友愛医療センター 看護部 救急部)

O6-3 当院の救急救命士におけるプレホスピタルにかかる役割と今後の課題

猪鼻 寿樹 (八戸市立市民病院)

O6-4 病院救急救命士と消防救急救命士が共に救急現場活動をするものの有効性について

佐々木 俊一 (済生会宇都宮病院 看護部 病院救急救命士)

O6-5 ドクターカーと重症患者搬送における病院救急救命士の関り~現状と将来の展望~

伊藤 希美 (済生会宇都宮病院 看護部 病院救急救命士)

O6-6 病院前救急診療に携わる看護師の意識調査~更なる高みを目指すために~

勝又 広太 (済生会滋賀県病院)

【第3会場 教育棟 2F 講義室2】

シンポジウム3（看護セッション） グラウンドナースの育成と今後の展望 8:30～10:00

座長：竹原 典子（日本医科大学付属病院 高度救命救急センター）

山崎 早苗（東海大学医学部付属病院 看護部 中央手術室）

- S3-1** グラウンド・ナースに求められる能力と育成
山崎 早苗（東海大学医学部付属病院 看護部 中央手術室）
- S3-2** ドクターカーに同乗する看護師への教育サポート～日本救急看護学会の取り組み
三上 剛人（吉田学園医療歯科専門学校／日本救急看護学会プレホスピタル委員会）
- S3-3** 在宅救急におけるグラウンドナースの役割とは何か
野呂 美香（医療法人社団 YAYOI やよい在宅クリニック / やよい訪問看護ステーション）
- S3-4** グラウンドナースに求められる知識・技能とは
高橋 竜介（東京消防庁）
- S3-5** 当院でのグラウンドナース育成の現状と課題
山村 英治（会津中央病院 救急科）
- S3-6** KSAVEモデルを活用したグラウンドナースの育成・評価方法
長井 貴司（徳島県立中央病院）
- S3-7** グラウンドナースと救命士の協働による重症患者家族への援助に関する取り組み
水本 光秀（奈良県立医科大学付属病院 看護部）

パネルディスカッション1 夢を語れ！未来の病院前診療への挑戦 10:30～11:50

座長：今 明秀（八戸市立市民病院 救命救急センター）

- P1-1** より迅速・効率的で安価に提供される持続可能な高質の救急医療のために
本村 友一（日本医科大学千葉北総病院）
- P1-2** いわゆる「ドクターカー」に係る日常言語慣用のための概念整理と定義付け
森村 尚登（帝京大学医学部救急医学講座）
- P1-3** 全病院前救急診療システムの一括運用を目指して
中村 光伸（前橋赤十字病院 高度救命救急センター 集中治療科・救急科）
- P1-4** 国民全てがドクターカーサービスを受けることが出来るためには
大友 康裕（東京医科歯科大学 救命救急センター）
- P1-5** 救急タグの普及 病院前における患者健康情報の円滑活用
酒井 智彦（大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター）
- P1-6** 心停止に対する病院前診療の限界に挑戦する
吉村 有矢（八戸市立市民病院 救命救急センター）
- 特別発言** 塩田 博昭（参議院議員：災害対策特別委員会）

共催セミナー3 12:30～13:20

座長：竹原 典子（日本医科大学付属病院 高度救命救急センター）

- LS3** 多職種で実践！ドクターカースタッフ育成のためのVR活用
本多 ゆみえ（東海大学 救命救急センター）、山崎 早苗（東海大学医学部附属病院 看護部）、須賀 涼太郎（日本医科大学付属病院 高度救命救急センター 救命士）、細木 豪（株式会社ジョリーグッド）

共催：株式会社ジョリーグッド

一般演題 口演7 運用

14:30～15:40

座長：増野 智彦（日本医科大学付属病院 高度救命救急センター）

- O7-1** ドクターカー出動時に現場到着までのツールとして何を使用するのが有効か
藤原 悠太（株式会社エヌジェーシー）
- O7-2** ドクターカー出動時、現場活動の検討
岸田 全人（埼玉医科大学国際医療センター）
- O7-3** 外傷ドクターカー活動におけるITデジタル設備の効果
卜部 真清（島根大学医学部附属病院 高度外傷センター）
- O7-4** 車横転のキーワードで要請された当院ドクターカー出動事案のまとめ
吉岡 勇気（徳島赤十字病院 救急科）
- O7-5** 当地域におけるドクターカー現場キャンセルは妥当か？
小林 辰輔（温知会会津中央病院）
- O7-6** 倉敷中央病院でのドクターカー事業と今後の課題 ～徳島赤十字病院でのドクターカー研修を経て～
田中 庸介（倉敷中央病院）
- O7-7** 院外心肺停止に対する病院前心肺蘇生戦略
～現場滞在型蘇生“Stay & Resuscitation”戦略の有効性の検討～
木本 慧（済生会宇都宮病院）

パネルディスカッション2 病院前診療：救急医療と地域医療との連携を考える
（日本在宅救急医学会・日本病院前救急診療医学会合同企画） 15:45～17:15

座長：横田 裕行（日本体育大学 大学院保健医療学研究科）

照沼 秀也（いばらき診療所ひたち 院長）

- P2-1** 救急医療と地域医療との連携を考える～救急救命士法改正の視点から～
横田 裕行（日本体育大学大学院保健医療学研究科）
- P2-2** コロナ時代の、在宅医療と救急医療の一つの病院連携
小豆畑 丈夫（青燈会小豆畑病院 救急・総合診療科／日本大学医学部 救急医学系救急集中治療医学分野）
- P2-3** 日本在宅救急医学会のご紹介
照沼 秀也（いばらき診療所）
- P2-4** 救急医療と地域医療の連携 ～二次救急病院の役割～
加藤 宏（医療法人社団永生会南多摩病院訪問診療科／防衛医科大学校救急部）
- P2-5** 超高齢社会における急性期医療のあり方
佐々木 淳（医療法人社団悠翔会 理事長・診療部長）
- P2-6** COVID-19第8波に向けた在宅医療における対策
～行動制限の無い社会に合わせた保健医療体制の再構築～
原 秀憲（医療法人社団はらクリニック）